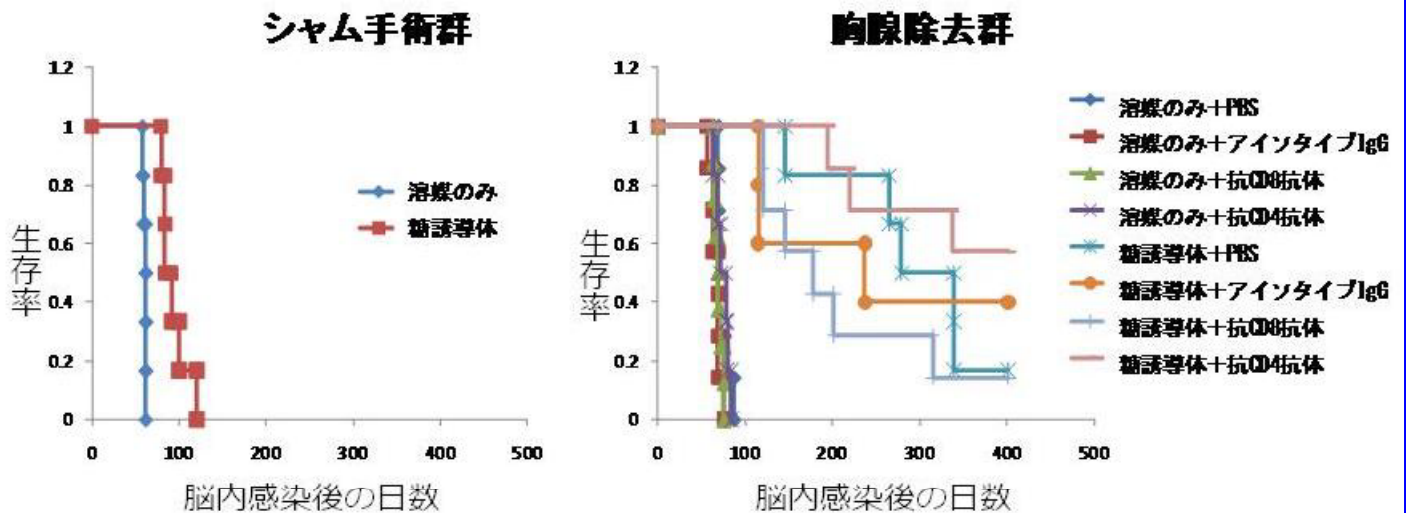


プリオン病の治療予防に関する基礎研究

研究分担者： 東北大学大学院医学系研究科 堂浦克美

発症遅延効果を持つ糖誘導体の作用機序 — 胸腺の影響 —



解説

脳内感染においてさえも優れた発症遅延効果を持つ糖誘導体の作用機序に、胸腺の機能が関連することを示すデータである。

新生児期に胸腺を除去した胸腺除去群とシャム手術群（偽手術群）のマウスにおいて、成熟後に抗CD4抗体、抗CD8抗体、アイソタイプIgG、あるいはPBSの腹腔内投与を繰り返した後に、糖誘導体あるいは溶媒のみを単回だけ皮下に投与し、その後にプリオンを脳内感染させた。

（縦軸：生存率、横軸：脳内感染後の日数）

胸腺を除去することにより、単回投与した糖誘導体の効果が飛躍的に亢進しており、何らかの胸腺機能が糖誘導体の作用を抑えていることを示唆している。